「昭島市新春駅伝競走大会」

牧　義明（成隣小地区・３期目）

第61回昭島市新春駅伝競走大会が、快晴で風もない絶好の駅伝日和となった１月10日に開催されました。この歴史ある大会に、中学生の部から一般の部までの６種目に、229チームのほか、オープン参加の２チームを加え、231チームの参加がありました。ランナーは仲間のタスキ渡しに緊張した面持ちで待機し、応援者もつい熱が入り、道路に出たり、中継所で道路を横断するなど、スタッフの整理も忙しかったです。

コースは光華小学校がスタート地点で、１部は一周約4.3キロを５区間、その他の部は昭和町・玉川町中継所で中継する６区間です。光華小（昭和町中継所）から玉川中継所までの区間は最初は下り坂ですが、諏訪神社から玉川小までは登りが続き、この間をいかに我慢して走り切るかがポイントとなります。最後は玉川小を右手に見て左折すると玉川中継所です。次のランナーの声援が聞こえ、タスキを渡してホッと一息です。

私は玉川中継所の担当をしましたが、中学生ははやる気持ちを抑え、整然と並んで仲間が来るのを待ち、ゼッケンを呼ばれて周りの仲間と声を掛け合う姿に好感を持ちました。

従来の人海戦術による記録集計から、タイム計測システムに変わり、タスキに装着したICチップが中継地点、ゴール地点のセンサーが感知し、データを瞬時に取り込んで記録を正確かつ迅速に集計でき、スタッフ一同大変感謝しています。また、選手のけがや途中棄権するチームもなく、大会が無事終了しました。

「スポーツ推進委員実技交流会」

小林　光夫（拝二小地区・２期目）

昭島市と立川市恒例のスポーツ推進委員実技交流会が昨年の12月19日(土)、立川市泉体育館で開催されました。

今回の種目はゴールドッヂで、開会式を終えて全員で準備体操で体をほぐし、競技内容について説明がありました。

ゴールドッヂとは、相手ゴールにドッヂビーを投げ入れて得点を競う競技で、ルールは、フィールド内でディスクを持って歩かない、接触禁止、フィールドプレーヤーは５人、競技者の交代はプレー中、自由にできるなどです。コートはフットサルやハンドボールのコートを使用しますが、今回は実技交流会用にサイドライン、ゴールラインの長さを縮小して設置されました。

ゲーム開始前に、立川市スポーツ推進委員による模範実技を見た後、各チームごとにパス練習をし、ディスクフリップにより攻撃権とフィールドサイドを決めました。

当日の参加者は41人で、１チーム６～７人、男女混合で６チームを編成し、各チーム２試合の合計12試合を行った後、第１・第２コートの勝者で決勝戦を行いました。

試合中は、慣れるに従って味方同士のパスワークや戦術も良くなり、相手ゴールへシュートを決めたときの爽快感から、「やった！」と大きな声が出たり、「ハイタッチ」をして喜び合う姿が見られるなど、大いに盛り上がった交流会になりました。

場所を移して情報交換会が行われ、ゲームの話題も出て和気あいあいの楽しい時間を過ごしました。